

おみごと！デゴイチ修復事業

取組に至る背景・事業の目的

昭和47年4月に休車となり、その後聖湖畔公園に展示されていたD51蒸気機関車（通称デゴイチ）は長年の風により塗装が剥げ、鉄が腐食して穴が開くなど、当時の面影が無くなり、子供たちがデゴイチの雄姿を感じられなくなっていた。

そのため、村民有志を中心としたボランティアを募り、車体の修復及び再塗装を行うことにより、デゴイチが当時の姿を取り戻すとともに、自分達の手で修復をしたデゴイチに愛着を持ってもらい、機会あるごとに聖高原に足を運んでもらうことを目的とする。

また、公園周辺及び公園へ続く道路沿いに花苗、苗木の植栽を行い、聖高原を訪れる多くの方々を楽しませる。

事業内容

村民ボランティアとともにデゴイチの修復・再塗装を行った。

湖畔公園内に地元保育園の園児による花苗の植栽を春・夏の2回行い各回1,200ポットを植えた。

湖畔公園への沿道に、村民を中心としたボランティアにより桜の苗木を植える「さくらの植樹会」を行い100本の苗木を植えた。



【塗装作業を行う参加者】

事業効果

デゴイチの修復については、延べ140人のボランティアにより修復作業が行われた。ボランティアは小学生から当時を知る年配の方々まで幅広い年齢層が集まり、作業の合間には当時の話などを聞くことができた。また、作業を通して参加者どうしの交流が生まれるなど世代間交流ができた。

「さくらの植樹会」については、村民を中心とした80名の多くのボランティアに参加をいただき行うことができた。その中の小学生参加者は新聞取材に対して「大人になって遊びに来たとき、大きく育っていてほしい」、「自分の植えた木が春に満開になるのを見たい」と話している。この植樹を通して郷土「麻績村」そして「聖高原」に愛着を持ってくれたものと考えられる。

この「おみごと！デゴイチ修復事業」を行う中で、新聞各紙・ラジオなどで事業を取り上げていただき「麻績村」「聖高原」が多くの人々の目や耳に触れたことにより、地元住民には地域資源を再認識してもらうことができ、他市町村の皆様には「聖高原」を身近な観光地として認識いただけたものと考えられる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

当時、湖畔公園にデゴイチを運び込んだ皆さんと、この事業でボランティアとして参加をいただいた皆さんの意志を次世代へ引き継ぐために、適切な管理保管をして、数年後には咲く桜の花も含め、多くの方々を楽しめる場所としたい。

【選定のポイント】

延べ140名を超えるボランティアが参加し修復作業が行われるとともに、花や苗木の植栽も実施するなど、作業を通じて多くの人々の交流が図られ、予定を上回る事業効果が得られており、モデル性に優れる。今後は、修復したデゴイチを地域資源として活用していくような取組を期待したい。

団体名	麻績村	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-67-2133 麻績村観光課	事業費	1,069,780円
		支援金額	801,000円